

ESD国際シンポジウム in 奈良2024を開催

国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学

1. はじめに

奈良教育大学は2007年に日本の大学としては最初にユネスコスクールに加盟登録して以来、ESDを基軸に据えた教員養成に取り組んでいます。2011年3月に持続発展文化遺産教育研究センター（当時、文部科学省ではESDを持続発展教育と訳していました）を設置、2015年には近畿ESDコンソーシアムを組織、2022年4月には、ESD・SDGsセンターを設立しました。そして今年度は2月17日にホテル日航奈良を会場に、ESDに関する国際シンポジウムを開催しました。

2. 奈良教育大学の3つの柱

1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究
2. 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の育成
3. 教員養成と教員研修の融合

本学では、教員を目指す全学生がESDについての知識、指導方法を身に付けることができるよう取り組んでいます。

3. ESD国際シンポジウム in 奈良2024

2月17日に「国境を越え、多様な主体が協働する教育（ESD）を通じた持続可能な社会の探求」をテーマに開催し、海外及び全国各地から合わせて約220名の出席がありました。

ユネスコ本部ESD課長である諸橋淳氏による「ESD・その潮流と課題、そして、教育変革の機会」と題した基調講演のあと、ユネスコ日本政府代表一等書記官、ユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）議長、韓国ユネスコ国内委員会国際部長、ウズ



ベキスタン共和国大使、そして、グラッドニー牧場長から持続可能な社会の創造に向けた先進的なESDの取組や方向性についてご紹介いただきました。

まず諸橋氏の基調講演では、気候変動、自然災害、格差の拡大、戦争・紛争、AIの進展など先行きに不安を抱いている人が多いこと。特に、若者の59%が環境に対する不安を感じており、教育を通じて希望を与えることの重要性を説かれました。各国の教育政策の45%が今日的課題に向き合っていない中、学習指導要領の基盤的理念にESDを位置付けた日本の教育政策の先進性を感じましたが、学校現場でそれが十分に生かされておらず、学歴社会、受験体制、教員研修不足など、様々な要因が考えられますが、「変革」をキーワードとしたアクションを起こしていく必要

があると述べられました。また SDGs の目標 4 の「質の高い教育」に関わっては、学修者にとって関連性のある教育内容であること、役に立つことを実感できることが重要であり、探究的で行動的、切実感のある教育を実践できるよう、教員のスキルアップを訴えられました。

午後の ESD シンポジウムでは、タイやインドネシア、韓国の ESD の専門家から各国の実情や国際的な諸課題を踏まえた多様な ESD の実践が紹介されました。本学からも奈良教育大学の ES を核とした教員養成と ESD ティーチャープログラムによる教員研修、ユネスコクラブによるユースの ESD 活動について報告を行いました。

シンポジウム後半のパネルディスカッションでは、持続可能な社会創りに果たす教育（ESD）の役割や、今後の ESD の展開に向けた国際的な連携・協働をテーマに、実践的な ESD の在り方や次世代の育成について議論が行われました。

本シンポジウムを契機として、参加者や機関を中心に国際的な連携を構築し、「持続可能な社会の創り手を育成」に向けてグローバルな ESD の実践を交流することにより、共に ESD の更なる深化を図っていくことを確認し閉会しました。

4. 異分野融合プロジェクト 環境教育×茶道体験



心理学者であるマズローは「欲求の5段階説」において、生理的欲求を根本に据えています。「生理的欲求」とは人間が生きていくための基本的かつ本能的な欲求であり、「水」、「空気」、「食料」がそれを支えています。飲み水、清浄な空気、おいしい食料は重要なのですが、安全な社会に生きる私たちには、それらが「あって当たり前」になっており、特に注意を払ったり、感謝したりすることは少ないでしょう。

今回、川上村森と水の源流館のご協力のもと、美しい水や空気の生まれる「源流の森」を見学・体感した後で、源流の水を用いての茶道を行いました。ESD for 2030 に、変革は「何が正しいかという単なる感覚から生じることが最も多いのです」と記されています。普段気づきにくい「水のめぐみ」を味覚を通して実感できるのではと考えています。今後、新しい環境教育

プログラムとして、県内外の高等学校の茶道部、一般の方の茶道教室などに呼びかけていきたいと考えています。

5. おわりに

奈良教育大学では、今回の国際シンポジウムをイベントとして終わらせるのではなく、グローバルな ESD に関する共同研究や学生交流などにつなげていければと考えています。また、ユネスコ本部の諸橋氏の講演で言及されました教員のスキルアップに関しては、本学は ESD ティーチャープログラムを開発・運用しています。令和 5 年度も 12 会場で開催し、現職教員 172 名、学生 9 名の方々に ESD ティーチャー認定証を授与いたしました。全国の ESD ティーチャーの人数は、平成 28 年度からの累計で 509 名となりました。ESD ティーチャーが核となり、各地で ESD に関する研究会が設立されることを願っています。